

すばらしい錦林の  
子どもたちのまなび

学校だより

# しきん

令和3年 5月26日  
京都市立第四錦林小学校  
校長 長谷川 英司  
GIGAスクール構想 特別版

## 第四錦林小学校 GIGAスクール構想の推進

～デジタル社会を生きていくための資質・能力を育成するために～

<GIGA端末活用の目的>

GIGA端末は、これからデジタル社会を生きるために必要な資質・能力（「学びに向かう力」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」）の育成をめざし、子どもたちが「自ら考え判断し、自信をもって行動する」力を身に付けるために、自分から「学びとる」ツールとして活用することを目的としています。

GIGAスクール構想\*により、本校にも1人1台の学習用タブレット型コンピュータ（GIGA端末）と高速大容量の通信ネットワークが整備されました。GIGA端末は児童1人に1台ずつ貸し出され、卒業まで使用します。校内ではすでに活用を始め、1年生も自分で端末にログインし、アサガオの成長の様子をカメラアプリで記録できるようになりました。GIGA端末はノートや鉛筆と同じ文房具として、子どもたちの学びに必要不可欠な学習道具となり始めています。このようにGIGAスクール構想では、これまでの教育実践とICT（情報通信技術）のベストミックスを図ることで、子どもたちの力を最大限に引き出すことを目指していきます。



今後、GIGA端末を家庭に持ち帰って活用することも計画しています。GIGAスクール構想を推進していくためには、ご家庭の協力が必要になります。学校では別紙のとおり「GIGA端末活用ルール」を定め、情報活用能力の育成を進めています。ご家庭におきましても、このルールを共有していただき、子どもたちがGIGA端末を活用して適切に学習が進められますようご協力をお願いします。また、日常生活においてもデジタル機器やインターネットを健全に利用する善き使い手になれますよう、学校・家庭・地域が連携・協働して子どもを育んでいくことに、ご支援とご協力をお願いいたします。

\*GIGA=Global and Innovation Gateway for All すべての子どもに個別最適化され グローバルで創造性を育む学びを実現する構想



## 自ら考え 判断し、自信をもって行動する子を育てる

### 学校は

<「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善>

- ・子どもたちの一人一人の反応を踏まえた双方向型の一斉学習
- ・一人一人の教育的ニーズや学習状況に応じた個別学習（個別最適な学び）
- ・各自の考えを即時に共有し多様な意見にも即時に触れられる学習（協働的な学び）
- ・ロイロノート・スクール、MS365、デジタルドリルなどの活用

<クラウドを利用した学校一家庭の連携>

- ・非常時におけるオンライン授業、オンライン懇談など
- ・クラウドやメール配信システムを活用した緊急連絡、アンケートなど

### デジタル社会を生きる子どもに

<育成をめざす資質・能力>

- ・多面的に考える力（比べる・関係づける）
- ・根拠に基づく判断力（目的に立ち返って）
- ・場に応じた表現力（簡潔に話す・聞く）
- ・勇気ある行動力（失敗を恐れず挑戦する）
- ・他者から学ぶ姿勢（認め合い・まなびあい・支え合い）

<重視する情報活用能力>

- ・自信を持って表現する力
- ・責任をもって適切に情報を扱おうとする態度

### GIGA端末を文房具として自らの学習に活用する子どもへ

### 家庭への協力

- ・基本的生活習慣の定着
- ・家庭学習の習慣化
- ・GIGA端末の持ち帰り利用（GIGA端末活用ルールの共通理解）
- ・日常のデジタル機器やネットの健全利用
- ・PTA活動

### 地域との連携・協働

- ・見まもり隊の安全・安心活動
- ・読み聞かせ活動（おはなしわくわく）
- ・地域の先生（剣鉾・和太鼓・茶道・ビオトープ・栽培活動・京都大学など）
- ・幼児や高齢者との交流（社協）
- ・サタデースクール（各種団体）
- ・国際交流（世界の和輪話・みずき寮）